



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

## シンガポール政府、初の環境債発行へ

### 環境債 2330 億円に上る発行額

シンガポール政府は 8 月中旬に、集めた資金の使い道を環境に役立つ事業に限るグリーンボンド(環境債)を初めて発行する。発行額は 24 億シンガポールドル (2330 億円) で、国内の鉄道建設に充てる。シンガポールは 21 世紀半ばごろまでに温暖化ガス排出量を実質ゼロ (ネットゼロ) にすることを目指しており、2030 年までに最大 350 億シンガポールドルの環境債を発行する計画だ。

政府が 4 日に発表した発行条件によると、環境債発行規模が 24 億シンガポールドル、期間は 50 年、利回りは年 3.04% となる。うち 23 億 5 千万シンガポールドルを機関投資家に販売し、5 千万シンガポールドルを個人投資家に割り当てる。政府によると、世界の国・行政当局が発行する環境債で最長のものとなり、シンガポールとしても初の 50 年債の発行となる。

政府は 6 月に環境債の基本ルールを発表し、用途を再生可能エネルギーや、水道・交通の整備、生物多様性の維持など 8 分野に限ると説明していた。今回の環境債は主に国内の新線建設に充てる。政府は公共交通の充実によって自動車の利用を減らし、21 世紀半ばごろまでに陸上交通から生じる温暖化ガス排出量を 16 年比で 80% 減らす目標を掲げている。



シンガポール政府は、2030 年までに取り組むべき環境行動計画「シンガポール・グリーンプラン 2030」を発表した。この計画の実行のために、積極的な資金調達が行われると考えられる。

今回は、皆さんが住んでいるシンガポールで、環境保全のために政府によって行われる取り組みについて取り上げました。環境債は「国債」の一つですが、「国債」はいわゆる「国が必要な資金を借入金すること」です。政府が環境債を発行することは、投資家や社会に対して、環境問題に取り組む姿勢をアピールすることにもつながります。この環境債の発行から、シンガポールの環境問題に対する高い問題意識をうかがうことができますね。

シンガポールでは、日本のように多くのお店で袋が有料になっているわけではないですが、私は積極的にエコバックを持ち歩くようにしています。皆さんは、環境保全のためにどのような取り組みを行うことができるでしょうか。(袴田)